

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	高齢者の生理的特徴と変化		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時間	前期 集中	教室名	第2校舎303
担 当 教 員	松原 康秀	実務経験と その関連資格	平成元年 医師免許取得 国立病院勤務を経て平成12年 松原整形外科開院 現在に至る 【臨床歴 31年】			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師が業を行う施術所やサービスを含む介護施設に多い、高齢者の生理学的な特徴と変化を理解し、より効果的な施術が行えるようにすることが目的です。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験評価:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
生理学改訂第4版(全国柔道整復学校協会編集)						
《授業外における学習方法》						
使用教材に指定している教科書「生理学 第4版(全国柔道整復学校協会編集)」を基に該当範囲の予習と復習を行うこと。適宜必要に応じて、図書館の書籍やJSTAGEなどで知識を深めることも必要である。						
《履修に当たっての留意点》						
カリキュラム改訂により新設された科目で、より臨床に近い内容を求められる科目となります。試験的な目的よりも自身の将来像を意識して履修してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	細胞の働きと加齢現象について理解する。	生理学第4版(全国柔道整復学校協会編集)		基礎的な細胞についての知識を確認する。
		各コマにおける授業予定	細胞のエイジング			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	体内水分量の変化と変化が与える影響を理解する。	生理学第4版(全国柔道整復学校協会編集)		ヒトの体内組成を確認する。
		各コマにおける授業予定	高齢者の体内水分量の変化			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢による器官の変化を理解する①	生理学第4版(全国柔道整復学校協会編集)		神経系と運動器の仕組みを確認する。
		各コマにおける授業予定	神経系・運動器系の加齢変化			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢による器官の変化を理解する②	生理学第4版(全国柔道整復学校協会編集)		感覚器と皮膚の構造を理解する。
		各コマにおける授業予定	感覚器系と皮膚の加齢変化			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢による器官の変化を理解する③	生理学第4版(全国柔道整復学校協会編集)		循環器と呼吸器の構造と働きを理解する。
		各コマにおける授業予定	循環器系・呼吸器系の加齢変化			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢による器官の変化を理解する④	生理学第4版(全国柔道整復学校協会編集)	消化器系の構造と働きを理解する。
		各コマにおける授業予定	消化器系の加齢変化		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い疾患と障害を理解する	生理学第4版(全国柔道整復学校協会編集)	高齢者の特徴を理解し病態を確認する。
		各コマにおける授業予定	高齢者に多い疾患と疾患		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の運動と加齢について理解する。	生理学第4版(全国柔道整復学校協会編集)	高齢者の運動機能についてを確認する。
		各コマにおける授業予定	高齢者の歩行機能と平衡機能		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			